

例題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① サツマイモの起源は、二〇〇〇年ぐらい前、南アメリカで栽培されたものといわれていますが、それが太平洋をわたって、フィリピンにつたえられ、そこから中国、琉球（沖縄県）へと、順次つたわってきたものです。

琉球にきたのは、江戸時代のはじめごろですが、このころ、ヨーロッパからポルトガルやオランダの船が、琉球の島じまにそって北上し、さかんに日本におとずれるようになっていました。その中のオランダの船によって、琉球からサツマイモがはこばれ、長崎県の平戸に上陸したオランダ人によって、はじめて栽培されました。

しかし、サツマイモの栽培がほんとうにはじまったのは種子島と薩摩の国（鹿児島県）からでした。種子島は、薩摩の国のすぐ南にある島ですが、いまの日本の、宇宙開発のためのロケット発射基地があるところです。

一六九八年に、種子島の藩主種子島久基に、琉球王からサツマイモが贈られてきましたので、久基は、このイモを島内に栽培させ、いろいろな食べかたまで研究させ、この

15

10

5

イモが食料としてたいへん役立つことを知りました。そして、種子島での栽培の成功を久基からおしえられた薩摩の国でも、栽培がひろまりました。

サツマイモは、雨がふらなくてもよくそだつうえ、食べるところが根で、地中にありますから、台風がきても被害をうけにくいのです。それに、ほる時期を早めても、また、おそく植えても、それなりに根は太くなりますから、食べることができます。

あの享保のききんのころ、石見の国（島根県）、大森銀山の代官井戸平左衛門は、旅の僧からサツマイモのことを聞き、これを非常食に役立てようと、近くの村々に栽培をすすめました。

だが、平左衛門は、ききんで苦しむ村人に、代官所の貯蔵米を幕府に無断で分配した罪によって、切腹させられてしまいました。享保十八年（一七三三年）のことです。村人たちは、平左衛門の死を悲しみ、ひそかに石碑をたててとむらいました。

平左衛門は、サツマイモ栽培の成功をたしかめることができないうまま死んでしまいましたが、サツマイモの畑は、石見の国にのこり、村人たちがききに苦しむとき、大きなすけとなったのでした。村人たちは、平左衛門を「いも代官」とよび、敬ったということです。

幕府がサツマイモの効用をみとめたのは、平左衛門が死んで二年後でした。幕府は、江戸に住んでいた学者青木昆陽から提出された、サツマイモの効果を書いた『蕃薯考』を読み、さっそく昆陽に、小石川にあった薬草園に栽培させました。

40

35

30

25

20

昆陽は、薬草園でそだてた苗を、江戸近辺の農家に分配し、栽培の方法をくわしく指導し、実際に栽培させました。こうしたことがもととなって、やがて関東地方一円にサツマイモの栽培がひろがったのでした。

〈大竹三郎「食べものくらし」より〉

(注) 起源は物事の起こり。

ききんは天こう不順などにより米のしゅうかぐがへり、食べるものがなくなること。効用は使い道。一円は一帯。

□ (1)

——線①「サツマイモの起源」について、日本でサツマイモの栽培がほんとうにはじまったとされているのはどこですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 江戸
- イ 平戸
- ウ 種子島
- エ 石見

考え方

文章全体の要点をつかむにはまず、その文章の話題が何かをおさえましょう。説明文では、初めの段落に書かれていることが多いので気をつけます。次に、その話題についてもう少しくわしくとらえます。文章を大きなまとまりに分け、それぞれに共通する内容をつかみましよう。ここでは「サツマイモの起源」を話題とし、日本人がその栽培をひろめてきた歴史をのべています。

□ (2)

——線②「このイモが食料としてたいへん役立つことを知りました」とありますが、サツマイモが食料として役立つ理由をのべた段落の最初の六字を書きぬいて答えなさい。

考え方

サツマイモの栽培がひろまった理由も、この文章の要点となります。安定した量を生産できることが、食料として役立つ大きなポイントであることがわかります。

(3) 次の説明に当てはまる人物をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。

- ① サツマイモを非常食として栽培すること
を村々にすすめ、「いも代官」とよばれた。
- ② 琉球王から贈られたサツマイモを栽培し、食べ方の研究までした。
- ③ サツマイモの効果を書いた『蕃薯考』を幕府に提出し、その効用をみとめさせた。
- ④ 小石川の薬草園でサツマイモを栽培し、近辺の農家に苗を分配して栽培法を指導した。

- ア 種子島久基
- イ 井戸平左衛門
- ウ 青木昆陽

----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

考え方

サツマイモをひろめた三人の日本人について、その名前と、どんなことをしたのかをおさえましよう。このように、同じようなこともくを整理することも、文章の要点をつかむうえで大切になります。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

もらった馬の口はのぞく

これは、イギリスやフランスなど、ヨーロッパの国ぐにのほか、ロシアやトルコ、アフリカのソマリアまで、とても広い範囲で使われていることわざです。

でも、いきなり「もらった馬の口はのぞく」といわれても、なんのことだか、ちよつとわかりませんね。

このことわざを理解するためには、馬と人間のむかしからのかかわりを知っておく必要があります。

馬は、今日の日本では、競馬以外ではあまり見かけなくなりしましたが、かつてはわたしたちの生活に密接に結びついた、とても重要な家畜でした。

農業では、畠をたがやしたり、田んぼの代かきをしてくれるたいせつな働き手でした。たいへんな力持ちで、人を乗せるだけでなく、馬車や馬そりを引いて、たくさん荷物運ぶ仕事もしてくれました。しかも、走らせるととても速いので、通信や戦いの場面でも活躍していました。

外国では、いまでも馬が重要な役割をはたしている地域が多く、馬の乳や肉、皮などもさかんに利用されています。このように、馬はたいへん価値のある家畜で、馬をもらうとすると、とても高価なプレゼントということになるでしょう。

では、なぜ、「馬の口はのぞく」というのでしょうか。

20

15

10

5

日本では、馬の売り買いを専門にする人のことを「ばくろう（博労）」といいます。ばくろうは馬の口のなかをのぞいて、年齢を判断します。毛並みなどもたいせつですが、年齢は、外から見ただけではわからないので、歯のへりぐあいを見て判断するのです。それによって、高く買うかどうか、決めることにもなります。

これは、馬の商いをするばくろうなら当然のことですが、ふつうの人がもらった馬の口をのぞくとなると、話がちがってきます。もらいものを値ぶみすることになって、失礼なことになるのです。きみたちだって、だれかにプレゼントしたときに、値だんがいくらするか調べられたりしたら、不愉快でしょう。

つまり、ことわざの意味は、もらったものにあれこれけちをつけたら、文句をいうものではない、ということになります。

プレゼントの価値は、品物の値だんで決まるものではありません。このことわざは、ものをいただいたときのマナーと、おくつてくれた人の気持ちが一番たいせつなことを教えてくれます。

〔北村孝〕「外国のことわざ」より

〔注〕密接Ⅱ関係が深いようす。

家畜Ⅱ人の生活に役だつように、家庭などで

かう動物。

代かきⅡ水田に水を引き、土をくたく、田植

えのじゅんぴ。

値ぶみⅡもののおおよその値だんを見つめること。

40

35

30

25

(1)

——線①「重要な家畜」とありますが、かつてわたしたちの生活に馬が必要だった理由としてふさわしいものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 畠をたがやしたり田んぼの代かきをする働き手だから
イ 人を乗せたり、馬車や馬そりを引いて荷物を運ぶから。
ウ 戦いの場面で速く動いて活躍するから。
エ 飼^かい主同士でしか手に入らないじょうぼうがあるから。
オ 乳や肉、皮がいろいろ利用できるから。
カ 値だんにかかわらずよろこばれるプレゼントだから。

(2)

(2) 線②「馬の売り買い」とありますが、馬を買うとき
に注意して見なければいけないところを、本文中から七字
で書きぬいて答えなさい。

(3)

馬をもらうときに、馬の口をのぞいてはいけないのはなぜですか。その理由を説明した次の文の□……にあてはまることを、本文中から二十六字で書きぬいて答えなさい。

馬をもらつた人が、馬の口をのぞくと、

から。

(4) 「もらった馬の口はのぞくな」ということわざについて、

次のそれぞれの問いに答えなさい。

① このことわざの意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア もらったものは、一つの見方だけではなく、全体的に見て値うちをんだんすることがひつようだ。

イ もらったものは、なるべくきずがつかないように大切にあつかうべきだ。

ウ もらったものには、何がかくされているかわからないので、すぐに手を出さないほうがよい。

工 もらったものには、あれこれけちをつけたり文句をいったりしてはいけない。

② このことわざは、プレゼントの価値は何にあると教えていますか。本文中から書きぬいて答えなさい。

單元 16 の新出漢字

64ページ

沖
チュウ／おき

縄
ジョウ／なわ

順
ジュン

崎
さき

鹿
しか／か／＊鹿児島

功
コウ／ク

官
カン

府
フ

タイ／お（びる）／おび

66へーヅ

競
キヨウ／ケイ／きそ（う）／せ（る）

働
ドウ／はたら（く）

失
シツ／うしな（う）